

第 3 回

開催日時	令和6年11月21日(木) 午後6時00分～8時00分	
開催場所	北原小学校 2階家庭科室	
出席者	委員	岡陽子、小林てる子、笠原敏、澤田石佳代、粉川潔、新谷順子、中村陸男、糸澤なぎさ、鈴木淳、辻健一、渡邊健治、藤永益次 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係、子ども教育施設整備係
会議次第	<b>【議事】</b> 1 北原小学校新校舎整備にかかるこれまでの経緯について 2 ブロックプラン(案)について 3 新校舎整備のスケジュール(案) 4 その他	

第3回 北原小学校改築推進委員会 会議要旨

1 開会

副委員長

定刻となったため、これより第3回推進委員会を開会する。本日は、委員長が喉の調子が悪い  
ため、副委員長が代わりに進行する。

傍聴希望者がいるため許可を諮りたい。傍聴について、これを許可してよろしいか。

—異議なし—

副委員長

では傍聴者は、注意事項を遵守し議事の進行を妨げないようにお願いしたい。

2 議事

副委員長

それでは、本日の議事について、子ども教育施設課長より説明を求める。

■議事1「北原小学校新校舎整備にかかるこれまでの経緯について」

子ども教育施設課長

第2回改築推進委員会の開催後に、区議会に請願書が提出された。このため、新校舎整備にか  
かるこれまでの経緯を改めてまとめたので、説明する。

令和6年4月26日に第一回改築推進委員会が開催された。主な協議内容は、整備コンセプト、

配置計画、施設計画、校庭整備についてで、新校舎整備に対する意見や質問を、後日改めて事務局へ提出いただくこととなった。

令和6年7月10日に第二回改築推進委員会が開催された。主な協議内容は、第一回北原小学校改築推進委員会の資料等に対する意見書について、ブロックプラン案、校庭整備に関する検討、新校舎整備スケジュールで、改築推進委員会として校庭を人工芝舗装にすることへの反対の意見があった。

令和6年区議会第三回定例会において、「北原小学校の改築に際し、地域の意見を踏まえた校庭の仕様にするということについて」という請願が提出された。

請願書は参考資料1に添付しているが、「主旨」としては、『北原小学校の改築計画において、「校庭の人工芝化」について多くの反対の声が地元区民から上がっています。中野区教育委員会は、「一律に人工芝にする」という方針ですが、北原小学校のおかれている状況を踏まえて、保護者、関係者、地域の要望を踏まえた校庭の仕様に決定することを要望します』ということである。区議会で審議の結果、令和6年10月21日に当該請願が採択された。以上がこれまでの経緯である。

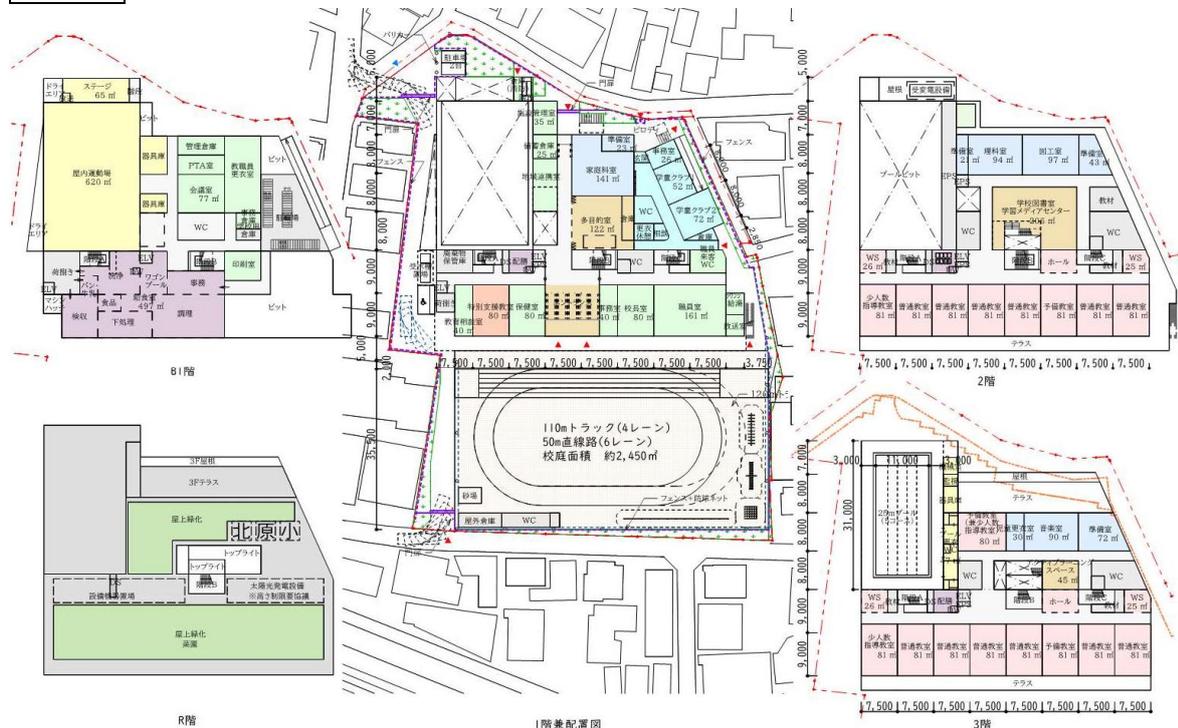
## ■議事2「ブロックプラン（案）について」

子ども教育施設課長

第二回改築推進委員会で人工芝反対のご意見が多数見られ、また、請願も出されたということで、校庭をダスト舗装（土舗装）にした案を作成したので、提示する。

校庭をダスト舗装（土舗装）にした案を2つ（A-1案、A-2案）、校庭を人工芝舗装にした案を2つ（B-1案、B-2案）用意した。

### A-1案



ダスト舗装（土舗装）の場合は、二足制を想定することになるので、1階昇降口に下駄箱スペースを設置する必要があるが、檜や露店を設置することや飲食が可能となる。また、人工芝舗装案に比べて犬走り部分が狭くなるので、校庭が約150㎡広くなり、全体で約2,450㎡程度になる。

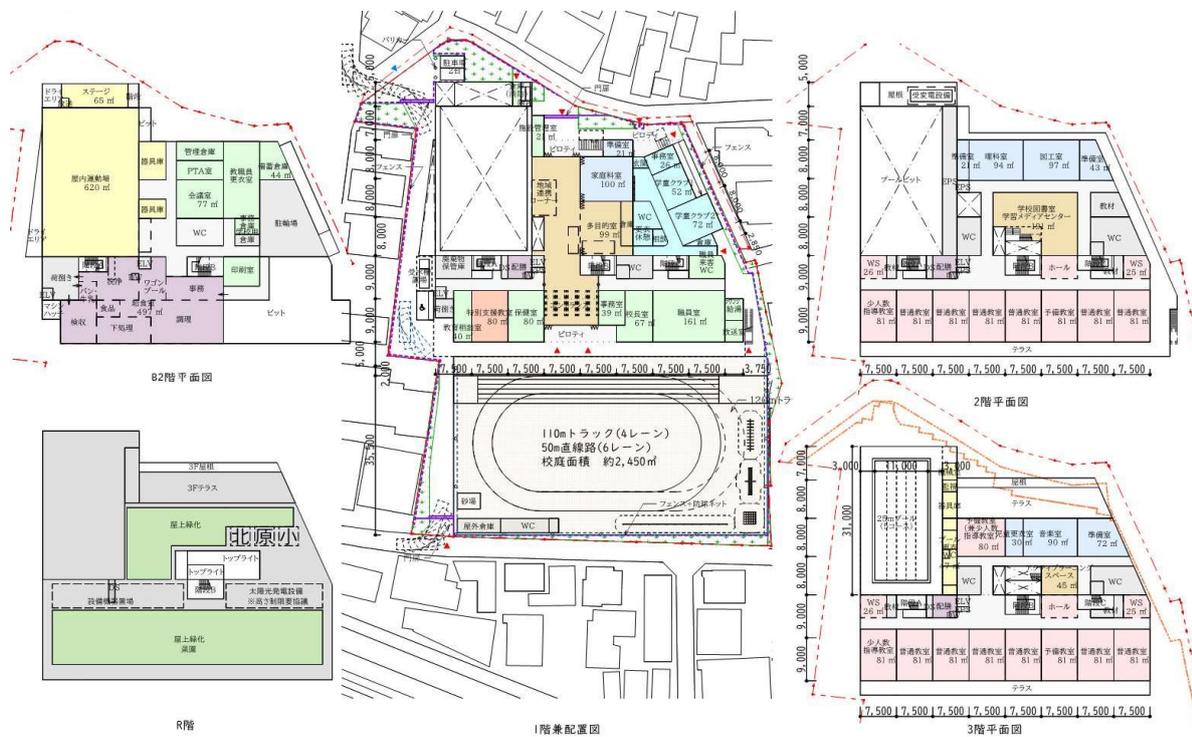
左上の図が地下1階になり、屋内運動場、給食室、管理諸室、駐輪場を設置している。プールは地上3階に配置している。

中央の図が1階で、職員室、校長室、事務室、保健室などの管理諸室と、特別支援教室、家庭科室、多目的室などを配置している。動線については、生徒は敷地の南西側にある門を通り、エントランス中央部分の昇降口から校舎に入り、エントランス付近にある階段を上り、各教室に上がっていく。屋内運動場は敷地北西側に配置しており、体育館開放の利用者は北側門扉から入り、施設管理室で受付後、階段から地下へ行く。学童クラブは1階北東側に配置しているが、北原小学校は敷地面積が小さいので、キッズ・プラザの活動室が配置できていない。キッズ・プラザに隣接して配置している、学校の多目的室を利用することについて、今後検討していく予定である。

2階、3階は右側の図で、校庭側に普通教室を配置している。区内の新校舎は、8m×9mを普通教室の標準サイズとしているが、予備教室を入れた15教室に加え、少人数指導教室も配置すると、8m×9mが確保できないので、校庭側の間口を7.5mとしている。現在の北原小学校は、7m×9mなので、今より狭くなる訳ではないが、他の新校舎より少し教室の間口が狭くなってしまふ。その代わりに、黒板側の間口を広めにとつて、狭さを軽減する工夫をする予定である。

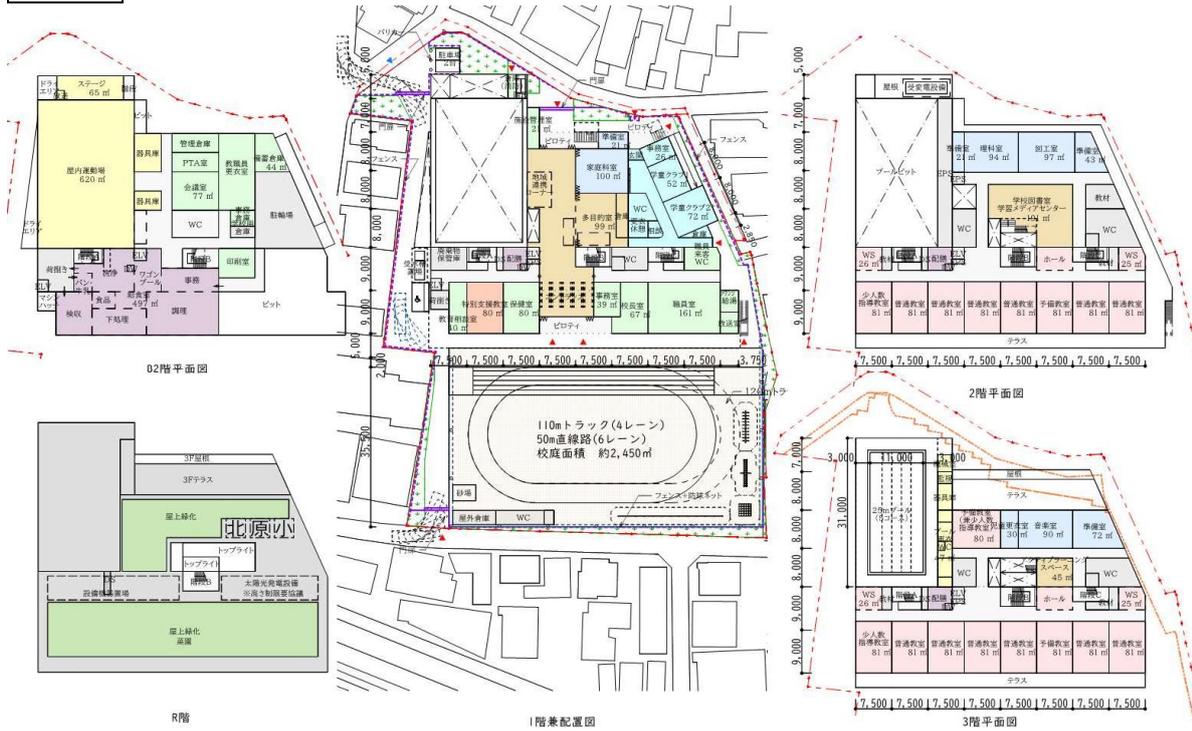
家庭科室以外の特別教室は2、3階の北側に配置している。また、2階の中央に学習メディアセンターとして、図書館と調べ学習ができるスペースをとる予定である。

### A-2案

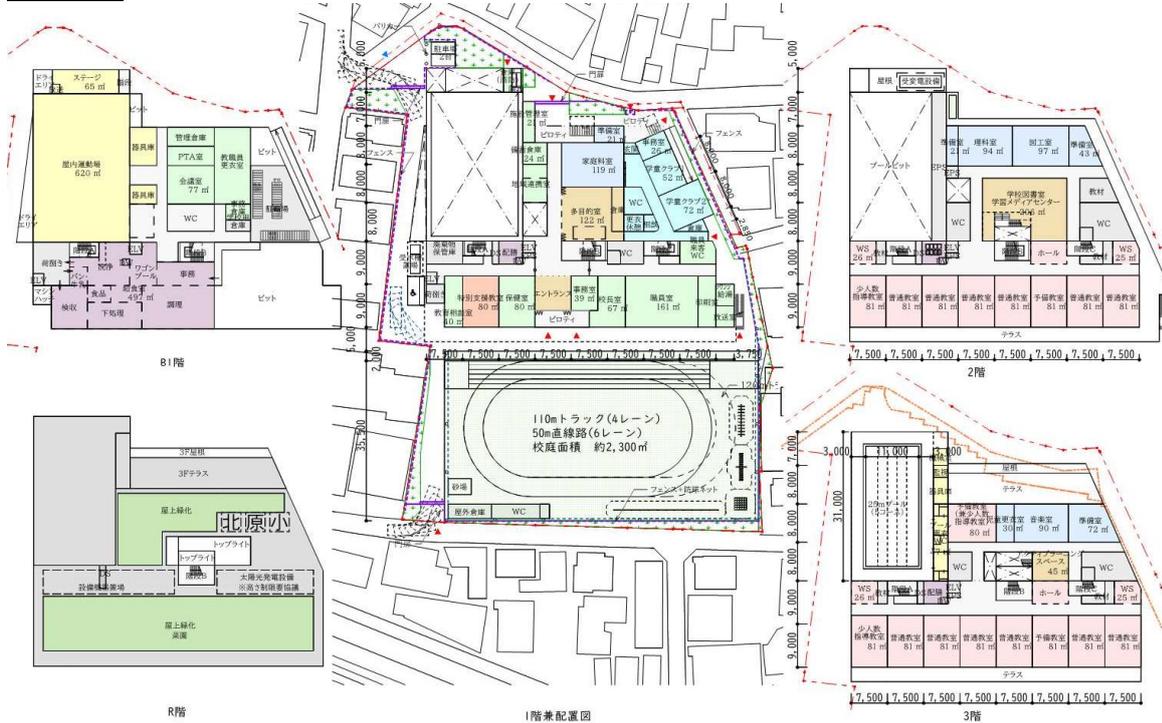


A-1案とA-2案の違いは、建物1階中央スペースの大小である。A-2案は、建物中央部を開放的にすることによって、多目的室などと一体的に利用することができる。この空間は、屋内ではあるが、地域イベントなどにも使用することができるよう、学校部分とセキュリティラインが分けられるようにしている。ただし、A-1案と比べて家庭科室や多目的室が狭くなっており、また地域連携室が確保できていない。

## B-1案



## B-2案



B案は人工芝舗装の案である。B-1案はA-1案、B-2案はA-2案と同様に、建物中央スペースの大小の違いである。B-2案は、前回の改築推進委員会の意見を受けて新たに作成した案であり、人工芝校庭であっても中央部分が貫通になっているので、このスペースで飲食をとることも可能で、一定程度、人工芝校庭と地域イベントの共存ができるプランとして作成したものである。

以上が4案の説明になる。本日はこの4案のうち、どの案が良いのかをお聞きし、できればま

とめたいと考えている。

人工芝舗装とダスト舗装（土舗装）についての特徴は、これまでも説明してきたところであるが、改めて参考資料2にまとめた。人工芝舗装は教育上のメリットが大きく、クッション性が高く転倒時に怪我をしにくい、日々のメンテナンスが容易である、などが挙げられる。逆に、火気が使えない、飲食ができないなど、北原小学校で盛んに実施されている地域イベントとの相性が良くない。ダスト舗装（土舗装）であれば、イベントは今までどおりで大丈夫だということである。ただ、砂塵が飛ぶので、近隣から苦情が出るかもしれないのと、二足制になるため、靴の履き替えが必要になるが、先ほどの4案のプランを見ていただくと、中央部分の開放部のところに下駄箱スペースを配置しているので、設計上は、それほど差は出ていない状況である。

### ■議事3「新校舎整備のスケジュール（案）について」

子ども教育施設課長

最後に、資料3「新校舎整備のスケジュール（案）」である。第2回改築推進委員会で示したスケジュールと異なる箇所はない。令和7年度から基本設計を開始し、令和8年度中に実施設計終了、令和9年度から代替校舎に移転し、同年より改築整備を開始する。改築整備が令和12年度中に終了予定で、令和13年度に新校舎が開校予定である。

今回、人工芝舗装に加えてダスト舗装（土舗装）の図面を用意したので、本日、方向性が一定程度まとまれば、このスケジュールどおり進められると考えている。説明は以上である。

副委員長

それでは、説明のあった内容について、皆様のご意見を伺いたいが、一つだけ確認させていただきたいのが、請願書に「北原小学校の改築に際し、地域の意見を踏まえた校庭の仕様にする」ということが書いてあるが、この「地域の意見を踏まえた」の「地域」とは何を指すのか。

子ども教育施設課長

請願書には「保護者、関係者、地域の要望」というのがあるが、区としては、まさに「保護者、関係者、地域の要望」をお聞きするところが、改築推進委員会だと認識している。

請願が議会の採択を受けたので、区が今まで説明してきた、「一律に人工芝」ということではなく、地域の方々が地域の特性に応じて、この仕様にしてほしいということであれば、それを採用したいと考えている。

副委員長

今日の意見の中で、土がいいとか、そのような意見であれば、そのように教育委員会で決定するということが良いか。

子ども教育施設課長

そうである。できれば、A-1、A-2、B-1、B-2のどれが良いか、ということをお聞きしたい。

副委員長

それでは、スケジュールどおりに動くためには、今日どれかを選択する必要があるかと思うので、皆さんの意見を聞いてから、総意を諮っていききたい。最初に、校長先生からお願いしたい。

鈴木委員

請願書では、「地域の意見をくみ取り、地域にあった学校を」ということへの支持が大きかったのだと思う。保護者、地域が、子どもたちのためにどんな思いや願いを持っていて、何がより良

く、より子どもたちの身になるかということをお互いに尊重し合い、新しい北原小の姿を話し合って合意形成をしていく。こういう会が今、できているということをおりがたく思う。

第2回改築推進委員会の後、私も区内の校長先生方や教育委員会の方々など、様々な立場の方と話をさせていただいた。その中で、人工芝や一足制の方が、子どもたちのことを考えると良いという思いをお持ちの方が、区内にも様々な立場にいるのだと感じた。その思いや願いも尊重されて、一律に否定されるべきではないと感じている。その上で、様々な意見をお互いに尊重し合いつつも、請願書の「地域の意見を元に、地域に合った学校を」という趣旨に基づいて、今日、北原小の子どもたちにとって一番いい形を決めていければいいと思っている。

副委員長

それでは、1人1人意見を伺っていきたい。

委員1

私としては、この案の中で選ぶとしたらB-2案かと思っている。請願書が出されたということも承知の上だが、今、天然芝なのがダストになるというのがレベルダウンと捉えており、どうなのかというのが正直ある。ダストは水はけが悪く、使い勝手が悪い。東京都でいうと、雨の日は100日から130日ぐらいあると思うので、授業などに影響が出ることが心配である。

また、区が実施した美鳩小と令和小の見学会に出席したが、人工芝を見ると、きれいで見た目も良いし、子どもたちも楽しそうに遊んでいる姿を見て、人工芝も悪くないのではないかという印象を受けた。

今は、祭りに関することが話題の中心になっている印象だが、一番知りたいのは、一番校庭を使う子どもたちがどういうものを望んでいるのか。それを知っているのが、先生方や学校の方だと思うので、その意見は聞いてみたい。

人工芝、ダスト、天然芝、それぞれデメリット、メリットがある中で、どっちかと決めないで、ハイブリッド型と言うか、例えば、よく子どもたちが遊ぶところはダストじゃなくてウレタンチップにして、別の場所でリラックスできる場所として、天然芝とか人工芝という選択肢もあるのかなと考えて、それに一番近いのはB-2かと思った。

あと、先ほどの説明の中で、1階の貫通通路の材質は何を選ぶ予定かを知りたい。

子ども教育施設課長

材質というか、1階中央部の廊下がA-1、B-1の場合は狭く、A-1、B-2の場合は広めになっているイメージである。

委員1

校庭ではなくて、校舎の中ということか。

子ども教育施設課長

そうである。

委員1

そうすると、校庭の中に多目的で使えるようなスペースを設置するのかと勘違いをしていたので、全部当てはまらない感じになる。いずれにしても、常にダストというのは、今のところ私は、あまり積極的ではないという意見で、案からは選べない。

副委員長

ありがとうございます。意見にひとつずつ返答したいところだが、時間もないので、次の方の意見を伺いたい。

## 委員2

4案とも選べない。というのは、この案が反対とか賛成という以前に、プールがいらないと思っており、4案ともプールが入っている案なので、今は、どれも選ぶことができない。もしプールをつくるとしたらという前提で、後で意見を言わせていただく。

以前、「北原小学校改築についての提案」というものを提出しており、それは、校舎の2階、3階の北西に計画されているプールに代わり、床工事を行い、多目的に使える広場を設置するのはどうか、というものである。2階、3階どちらからも出入りが可能な構造にして、日常的に利用する。プール用の更衣室、トイレ、器具庫も日常的に使えるように転用する。雨天でもボール遊びや集団遊び活動ができ、2階、3階は小学生のためだけのスペースとして特化し、体育館に行くよりも、日常的に使える広場があったら良いと考えている。どんなふうに使いたいかは、子どもたちが皆で意見を出し合うことで、子どもの権利を尊重でき、新しい北原小学校に、子どもたちの意見が採用されることを期待する、ということで提出した。近年の地球規模の気温上昇により、屋外活動が制限される可能性があり、屋内施設の利用が高まると想像する。プールがなくても、体育館のような施設を二つ持つ学校は、将来的には評価されると考えている。

この4案に関しては、すごく悩むところだが、家庭科室が広いほうが良いと思っている。授業で使えるスペースはなるべく広いほうが良いと思っているので、これで言うとA-1が良いと思っているが、地域が使えるスペースが広くなることと、キッズのスペースがないので、キッズがこのスペースを使うことになるのかということもあるが、いずれにしてもA-1かA-2なのだが、決めかねている。

## 副委員長

次の委員、お願いします。

## 委員3

まず、ブロックプランで校庭のダスト舗装（土舗装）案が出たことを喜ばしいと思っている。3か月前に北原小学校で盆踊りがあり、今年度も無事に終了することができた。あと2年は現在の状況のまま続けられるが、野方には代替地がなく、3、4年はこういうイベントができないことになるということを改めて思っている。新校舎完成までに約6、7年がかかるという資料をいただき、新校舎完成が見られるように頑張っていきたい。改めて、ダスト舗装（土舗装）案を希望している。ぜひよろしくお願ひしたい。

## 副委員長

次の委員、お願いします。

## 委員4

天然芝の案がないのは、意味があるのか。

## 子ども教育施設課長

区として、天然芝を今、新たに導入していない。

## 委員4

案から完全になくしているということか。

## 子ども教育施設課長

以前は天然芝も導入しており、北原小は今、天然芝の状態だが、管理が難しいということから、天然芝は新たには導入していないところである。ご意見としてあれば、管理をできればという

ころである。

天然芝は養生期間があって、その間、校庭が使用できないので、学校教育上の制限があり、区としては、土か人工芝と考えている。

#### 委員4

天然芝がいいのだが、デメリットも確かに承知をしているので、それであれば、ダストのA-1の、広く色々と使えるところがいいと思った。

質問だが、植えられる木が、どれぐらいの規模でどの辺りに置かれるかというのが、これを見ただけでは分からないので、今日でなくても良いが知りたい。

#### 子ども教育施設課長

冒頭に、今日ある程度決めたいという言い方をして、プレッシャーをかけてしまったかもしれないが、今はまだ基本計画なので、基本設計の段階でまた改築推進委員会でご意見をいただく予定である。大きな変更でなければ、来年度、基本設計の際にまたご意見をいただきたい。

植栽については検討中なので、どのぐらいの木を植えるのかというのは、まだ決まっていない。植樹として想定しているのは、ブロックプランの北側の緑色の部分がそうなのだが、高さや樹種は、設計の中で検討していく。

#### 副委員長

次の委員、お願いします。

#### 委員5

質問だが、今は、下駄箱は第3昇降口と第4昇降口に分かれているが、この案は1か所だけで、6学年が1か所に入る感じか。

#### 子ども教育施設課長

今のところはそれを想定している。下駄箱を2か所に配置すると、またほかの部屋が圧迫されてしまうので、今のところは中央に集中して配置している。

#### 委員5

私もこの4つの中ならA案がいいと思う。今年のお祭りでも、子どもたちのすごく楽しそうな感じと、おやじの会のサマーキャンプの様子などを見ていると、今、天然芝でできることをダストで続けたほうが子どもたちもうれしいだろうし、制限されるよりは、今までどおりできるダスト舗装（土舗装）でいきたいというのが、私の意見である。あと、プールは要らないと思っている。

#### 副委員長

次の委員、お願いします。

#### 委員6

先ほどの最初の説明だと、ダスト校庭になるのかなと私は理解していたのだが、まだ決まっていはいないのか。

#### 子ども教育施設課長

請願書は、「一律に人工芝とする」方針を、「保護者や関係者の地域の要望を踏まえた校庭の仕様にせよ」というものであり、理由の部分は長いのだが、下の2段目ぐらいのところに書いてあるのは、一律の人工芝という考え方は様々な課題が出てきており、もっと柔軟に地域の意見をく

み取るべき、とあり、本日、両方プランを提出したので、どちらとも、フラットにお聞きしたい。

#### 委員6

どっちが必ずいいというのは、なかなか決められないが、子どもの勉強だけではなくて、色々な地域の方たちとの接触とか、そういうのも子どもたちの成長にすごく役立つと思うので、私はダスト校庭の、どちらかと言ったら、A-1案のほうを希望している。真ん中の廊下が広いのが、どのくらい利用の価値があるかと思い、その分、教室を広く使ってもらったほうがいいかと思う。

それと、プールだが、年に1か月か2か月の使用なので、なくてもいいかと思う。私立ではプールのあるところが少ないと思うが、区立では決まっているのか。

#### 鈴木委員

それは指導要領で決まっているので、後で説明する。

#### 委員6

分かった。本当に北原小は狭い土地で、皆さんこれだけの設計をされて感謝しているが、子どもたちが本当に一番いいような設備にしていだきたいと思う。

#### 副委員長

次に私の考えだが、私はダスト舗装（土舗装）のA-1案がいいと思う。子どもの育ちとは、学校生活だけではなく、地域の人との触れあいとか、地域でやっているものとかで、いろいろな大人とのつながりとかもあり、お祭りは年に2日間だけだが、保護者会に行くとき夏思い出として7割ぐらいの子はそのことを書いている。たった2日だけれども、大人の行事ではなくて、子どものために大人がやっている行事と捉えていただければと思う。

教育委員会の方が、こうすれば人工芝と両立できるという案を示してくれたが、それをやるためには、お金と労力がすごくかかる。できる、できないで言えばできるが、その備品をどうやって保管して、お金は誰が出して、どうやって設置するのかということも考えたら、ダストの方が、すんなり今までどおりできる。

私は、子どもも孫もお世話になっているが、一番上の子の時は砂だった。自分の時はラバーみたいな校庭だったが、暑くてやけどもするし良くないということで砂になった。砂で別に問題はなかったが、真ん中の子のときに天然芝になった。そのときに会長を務めていたが、3か月くらい使えなかった。雨が降ると養生するとか、夏芝植えるとか、冬芝植えるとか、芝生のために子どもが遊べない。

私は、養生がなければ、天然芝が一番いいと思っているが、遊べない時期が長過ぎる。あと、人工芝に関しても、環境面とか防災面とかそれぞれ一長一短があると思うが、どれがいいかと言われたらダストを選ぶ。廊下が広いバージョンもあるが、これは人工芝のときに広げた案を作成いただいたが、やはりキッズ・プラザがなく、多目的室をその代わりに使うとなると、広いほうがいいと思う。多目的室を広くしたいので、A-1を私は選びたい。

#### 委員長

私はA-2がいいと思っている。出入口は、南側が今のところ1か所なのですけれども、1か所ならば中央がよくて、2か所が理想だと思う。

あと、プールの件は、これは私の意見だが、高度過ぎてしまって、ここで話をするような内容ではないと思っている。

#### 副委員長

プールの提案の件については、私もそう思う。ただ、10年先だったらそうだったのかなと思う。

## 委員2

なぜ10年先なのか。

### 鈴木委員

私も、10年先に気温や気候がどうなっているか予想がつかないが、今、学校で守っていかなければいけないのは、学習内容。つまり指導要領中で、体育の指導要領の中に、水泳とか水遊びが入っている。確かに指導要領を読み込むと、適切な水泳場な確保が困難な場合は、これらを取り扱わないことにすると書いてあるが、これは壊れてしまったなどで仕方がない場合である。

学校としては今、プールの指導をしていかなければいけないとなった時に、もしプールを作らなかつたら、どこかに借りに行かなければいけないが、暑い中、鷺宮の区民プールに行くのか、そこも深さなどが分からない中で先生たちが指導して、万が一事故があつたらどうするのか、緑野小に歩いて行くにしても、暑い中歩かせるのか、行ってみたら水温が高過ぎて使えなくても歩いて帰ってくるのか、ということまで考える。あとは、行き帰りの時間があるため、その分の時間数を確保しなくてはということもあり、それらを考えると、プールをなくすという考えは、実際にそういう自治体も出てきているのかもしれないが、近くに適した施設があるとか、バスが出せるとか、そういうことが今は考えられないので、プールは作ってほしいというか、あって然るべきだと思っている。

暑いので地下にプールをつくって、2階、3階に体育館ということも相談したが、お金の面や設備の面で課題があり難しいと聞いたので、その案は考えないで、屋上にプールを作って、その上にプール膜を張ってもらうということを検討していただいているので、その案でいければと思っている。

## 委員2

プールが嫌なのではなく、もう一つの体育館の方がいいのではないかと、という提案である。

子どもたちが今、屋内型の子どもたちになっていて、校庭で遊べると言っても、本当はあまり遊ばない。だから、屋内で遊べると言ったら、どんなにか楽しく皆で広場を自慢して、北原の室内の遊び場と言えるかなど。前向きな意見に傾けば、一気にプールはなくなると思うが、今はプールをなくせないということで縛られているので、これ以上はその話をしても無駄かと思う。

ただ、北原小は本当に狭い。なので、第1回改築推進委員会でタイムシェアの話をしたが、夕方以降、例えば地域の居場所として使ったときに、子どもは地域の子どもになり、地域の大人が活動をするが、学校部分には鍵をかけて入れないよう線引きをしている。普段、小学校の体育館として使っているところを地域が使うというのと、もう一つ北原小には体育館があるから、地下は地域の人でどうぞ使ってくださいというのでは、考え方も変わると思う。

絶対にプールが必要だと言われたら何も言えないが、別に夏にプールに入らなくてもいいのでは。クーラーをつけた体育館で遊び、もっと涼しいときに別の施設を借りるとか、そういう柔軟性がなく、夏に相変わらずプールをやる。でも暑くていけないというようなことが説明だったら、どうやって納得していいかわからない。もしプールをやめても、床を張れば体育館になるから、10年後にそうしてもらえたら良いが。

### 鈴木委員

プールの時期は考え直そうとなってきた。今まで授業では、6月の半ばから夏休みの前までやり、夏休みが終わってから、また1、2週間プールをやるのが当たり前だった。でもこのように暑くなってきたので、6月の始めから始めるとか、10月に入ってからやるのか、1年中暑いわけではないので、ちょうど良い時期もあるはずなので、そのように考えないと、指導要領の内容はできなくなってきた。夏休みのプールはその時期しかないもので、まだ分からないところはあつたが、授業で考えたときには、時期をずらして行うことも考えられるから、ただ暑い

というイメージだけではないのかもしれない。

## 委員2

北原小では、暑くて入れなかったときが何回かあったと思う。あとは夏のプールでも、警戒アラートが出ていて、外出禁止だからプールに入れなかった時もあった。数字的なデータは持っていないが、結局高いお金を使って1年間維持をして、何回入ったのということは、どこかで突っ込まれると思っている。それと今、本当に職員が足りなくて、プールどころではないと思う。スポーツクラブだったら、1人の指導員に6人介助員をつけないと、25メートルのプールは管理できない。それが今、学校ボランティアとかコミュニティスクールとか、まさにそういう話にこれからなっていく中で、ボランティアに学校を見てもらおうということは不可能だと思う。だから、気温だけのせいでもないのかなと疑っている部分もある。改築だけの話ではなくて、もう少し色々教育に関わる全体の課題というか、問題点を踏み込んで話して学校を作らないと、また無駄なもの、管理にお金がかかるようなものになるかと思う。それでもプールを作るなら結構だが、私はそういう意味では納得がいかない。

## 委員3

私の考えでは、教育上、プールというのは体育の一環なので、必要なのではないかと思う。私の子どもの頃を思い出しても、遊びが少なかった時代だったが、プールで先生に指導をしていただいて、級が上がっていくことが励みでやった思い出がある。

このような計画図もできていて、2階、3階はプールスペースとしてできている状況でプールをなくせと言ったら、どのような状況になるのか。プールの計画をストップするような形になってしまうと、ますます北原小学校の改築が遅れていくのではないかと考えている。

## 副委員長

プールを後から体育館的なものにするということは、後からできるものなのか。

## 子ども教育施設課長

屋根がないので難しい。

## 副委員長

美鳩小と令和小はプールの上に屋根がない。だけど、北原小は可動式のプール膜が一応つくようである。

## 委員6

プールが駄目というのではなくて、活用できれば、運動のためには子どもたちにはいいと思う。屋根がつくなら。

## 事務局

事務局から補足をさせていただく。まず、プール膜は、東京ドームの膜のようなものを帯状に何本かつくって、開閉ができるものを想定している。これを実際に導入している学校が、他区にあり、見学に行ったところ、閉めた状態だと寒い時期でも暖くなるため、5月ぐらいから10月くらいまでプールを使用できる。授業を短期間で詰めていたのを、長い期間の中で振り分けられることになるため、カリキュラムが組みやすいという話があった。

一方で、お話にあったプールを使わない時期に水槽の上に板等を敷いて、広場のように利用する仕組みを導入しているところもある。正確に取材したわけではないが、相当なお金と相当な労力をかけて、敷いたり外したりしているというのを聞いた記憶がある。その作業を教職員が担うのかという話にもなりやすいことだろう。

#### 副委員長

火事があったときに、プールの水を利用したりするときは、その水はどこから取っているのか。

#### 事務局

プールから取水できるように整備するので、消防水利としては引き続き使える。

#### 子ども教育施設課長

繰り返しになるが、プールについては、建築基準法上、追加で膜を設置することが難しい学校にはついていないため、それを前提として考えると使えないという議論になるが、先ほどもご説明したとおり、膜をつけるとかなりの遮熱になるので、そこである程度の解決はできている。また、膜があることによって、視線対策にもなるので、その部分も新しい環境ではまた違うということを確認いただきたい。

皆様のご意見を聞くと様々あったが、キッズ・プラザの活動室のスペースがないので、そこを大きくとってほしいということが共通していたと思う。廊下部分を広くするよりも多目的室を広く取るべきという意見があった。

校庭については、我々も子どもの怪我は気にしており、校庭の仕様についても、例えば、遊具の下の部分の仕様はゴムチップなど、落下の衝撃に強いものを整備して配慮することなどは、また検討したいと思う。

皆様の本日の意見も踏まえ、A-1案で基本計画を取りまとめさせていただいて、ただ、まだこれで終わりではないので、例えば、入口部分が気になっているという話や、南側の位置について、遊具との関係をどうするのかも含め、検討していきたいと思う。

#### 鈴木委員

遊具の下はすごく事故が多いので、配慮してほしいと先生とも話していたので、ありがたい。

それと、人工芝もダストも両方とも、1案と2案を比べると、家庭科室の大きさが100㎡と141㎡で大きく違う。子どもの動線だとか、活動に何人が入ってということを考えていくと、ゆとりがあるほうが安全を確保しやすいと思っているので、そういう意味では1案の、家庭科室が大きい方がよいと思う。

あとは、学童とキッズ・プラザのこと。多目的室に倉庫があるが、倉庫は別のところに移動できれば、もしかしたら移動しやすいし、有効に活用していただけるのかと思った。

そのような細かいことは、今日、どの案が一番ということが決まれば、また話し合うということでもいいのかと思う。

#### 副委員長

多目的室の倉庫が大きいかなと思うが、何を入れる倉庫か。結局、キッズ・プラザがないから多目的室をキッズ・プラザとすると思うが、学童クラブとの動線を考えると、トイレの脇とかに入り口があったほうが出やすいと思う。

#### 子ども教育施設課長

この倉庫は、キッズ・プラザの利用のための倉庫を想定している。この部分はまた、設計の中でつくり込んでいく。

#### 副委員長

あと、動線は。

#### 子ども教育施設課長

今のところ学童から、多目的室の下のところから通れるようにしている。

## 委員2

家庭科室と逆にすればいいのでは。

## 子ども教育施設課長

そこも検討する。

## 副委員長

設計したりするときに、児童館の意見を聞いたりすることはあるか。

## 子ども教育施設課長

育成活動推進課のキッズ・プラザと学童プラザの担当職員がいるので、担当に意見を聞いている。担当からは、もっと広くして欲しいと言われている。

## 副委員長

使い勝手とか、何が欲しいとかということも、よく聞いていただきたい。

## 子ども教育施設課長

家庭科室が北側にあるのは、排煙のために窓側に配置しているからである。ここは設計での検討としたい。

## 副委員長

動線を考えて設計していただけたらと思う。下駄箱をつくるとか、運用面でどうにかなるものはその後でもいいが、設計でどうにかならないものというのは、そこかなと思う。

## 子ども教育施設課長

我々もそのことを一番気にしているが、北原小は現在、北原ランドを運用しているという特色のある学校なので、工夫のしようはあると思っている。

## 副委員長

副校長先生からもご発言をお願いします。

## 辻委員

子どもの意見も聞いてみたかった、というご質問があったが、直接子どもには聞いてはいないが、子どもは外で遊ぶのが好きである。減っているかもしれないけれど、今日も、休み時間に雨の中、出ようとしていて、先生たちに止められるというようなこともあった。

人工芝の良さも、もちろんある。怪我をしづらいというものもあるし、土の良さも、野方地区では特にある。本当に一長一短で、子どもだけ、学校現場だけと考えたら、私も個人的には人工芝のほうがいいのか、体育とかもラインが引けているし、水はけも良いしと思うが、野方地区、地域で育てている子どもたちというのが、私は昨年度に異動をしてきて、すごく感じていて、サマーキャンプ、おやじの会、焼き芋、野方地区祭り、野方盆踊りと多くのイベントがあり、そこで子どもたちがたくさん来る。その翌週、それが楽しかったねという話を、子どもたちは学校ですごくして、そういう効果というのはすごく大きいと思っている。それが全くなくなってしまふというのは、今の北原小を2年間見てきていて、イメージがつかない。なので、やはり地域の実情に合ったというところでは、ダストというのが北原小なのかと思う。

欲を言えば、私も天然芝にしたいなと思っている。現在は、養生期間がゼロである。今の校長

も、昨年度までいた校長も、子どもを遊ばせてなんぼだねという考え方なので、養生はできるだけしないでおこうということで、よっぽど剥げてきた部分だけシートを貼っている。天然芝になったらなったで、子どもを遊ばせながら、うまくやれる方法もあるのではないかなと思う。

#### 副委員長

私も素材としては、天然芝が一番いいと思っている。ただ、実際、天然芝になったばかりのときにいた者としては、最初は長く養生がいる、今みたいに何年もたって、下に根づいてきたからこそ、養生なしでいけると思っている。

#### 鈴木委員

最近気がついてきたのが、日照の問題があって、今の時期、13時過ぎには校舎が影になって、芝生、校庭に日が当たっていない。よく芝生が育っている学校は、割とずっと日が当たっている気もする。今回、校舎の位置が変わってきているので、もし芝生を検討するのであれば日照的になんとかということも検討した方が良いでしょう。

#### 副委員長

あと、お金がかかる。導入した当時は、都から補助金があったので導入したという経緯があるが、今は出ていない。

#### 委員1

多分、都の補助制度はあると思う。

#### 事務局

天然芝導入に関わる補助金制度を東京都に取材したところ、令和7年度までに着工するものが対象であり、その先の予定は今のところないという答えだった。北原小の整備においては対象ではなくなる可能性が大いにある。

#### 副委員長

補助金がどのくらい出るものなのか。

#### 事務局

必要経費の半分。必要経費というのは、補助金算定の対象とされる経費のことを指していて、天然芝敷設工事経費の全額に対してということではない。

#### 副委員長

最初の敷くための経費だけなのか。メンテナンスには出ないのか。

#### 事務局

都は、ランニング経費を補助金制度の対象としていたこともあった。いずれにせよ、本件は、補助金制度の対象ではなくなると思われる。

#### 委員1

私もこの間の盆踊りも参加し、地域のお祭りがたくさんあって、野方に引っ越してきてよかったと思っているので、お祭りを無下にするという考えは全然ない。ただ、今、人工芝にしたら一切お祭りができなくなると進んでしまっていたので、そうではなくて、できるような方向で、さっき言ったハイブリッドとか、一番いい方法を考えられたらいいかなと思っていたのだが、いろいろなお意見もあり、一長一短もあると思うので、これで終わりにする。

今、A-1の案でいく形になっているかと思うが、それについて、ダストにするのであれば、さっき懸念していた水はけが悪いところを解消するために、素材を選ぶときに、水はけの部分を考えていただくと良いと思っている。

副委員長

砂だけの問題ではなくて、下の大地というか、土台の部分のことも一緒に考えてもらい、さらに砂塵は少ないほうがいいので、粉が飛ばないように砂で浸透性がよくクッション性がある、ちょっとわがままなのだが、良い砂を探してきていただき、土壌も整えた状態でやってもらえたらと思う。あと、スプリンクラーをお願いしたい。霧のようにできる、ハイスピードスプリンクラーというのがあるが、それを考えていただければと思う。

子ども教育施設課長

ダスト（土）についても、今は新しい素材が出てきている。白桜小学校で校庭の土の入替えでは、グリーンダストという、砂塵が舞いにくいようなものを採用しており、そういう素材も出ている。透水性についても検討するし、区として一番気にするのは砂塵の問題なので、そういうことも総合的に考えながら検討したい。

これは、基本計画ではなくて、基本設計より先の、実施設計で検討していきたいと思っている。

スプリンクラーは、ダスト舗装（土舗装）の場合は必須にしている。ハイスピードスプリンクラーというものを把握していないが、新しく導入するのであれば、きちんと運用できるものを選んでいきたい。それも実施設計の段階で考える。ご意見があったことは、設計に反映していきたいと思っている。

副委員長

ほかにあるか。ないようだったら、正式な決定については教育委員会が行うことになるが、事前に出した意見書とか、その辺も加味していただけたらと思う。改築推進委員会としての総意を4案から取った方が良いか。

子ども教育施設課長

本日、お聞きした様子では、A-1案かと思っている。

副委員長

挙手をしてもらうなどはしなくても良いか。

子ども教育施設課長

今は、A-1案なのかと思うが、今回この案で基本計画をまとめることができれば、3月くらいから基本設計が動き出して、4月以降にまたお話しできるので、今日いただいた意見も反映しながら進めていきたい。設計では、もっと細かい計算をし始めるので、この図面と変わるところが、またある程度出てくる。そこをまた修正しながら、このような意見交換をしていきたい。

副委員長

今日欠席の方に聞か。

子ども教育施設課長

この案で進めるのが適切かと思っている。

副委員長

分かった。今後の委員会については、詳細が決まり次第、事務局から案内する。

本日の北原小学校改築委員会は、これをもって終了する。